

**Citation:** Buchbinder R, Green S, Bell S, Barnsley L, Smidt N, Assendelft WJJ. Surgery for lateral elbow pain. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2002, Issue 1. Art. No.: CD003525. DOI: 10.1002/14651858.CD003525.

**CRG名:** Musculoskeletal

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 13 November 2001.

**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 4; -

**背景:** 本レビューは、外側肘疼痛への介入に関する一連のレビューのひとつである。外側肘疼痛、いわゆるテニス肘は一般にみられる状態であり、外側の肘と前腕の疼痛および肘と手首の力と機能の低下を引き起こす。他の侵襲性の少ない介入が失敗した外側肘疼痛の慢性症例の治療に、時に手術が推奨される。病理学的所見の術者の概念に基づいて様々な手術が記載されている。最も多くの記載がみられる外科的手技には、短橈側手根伸筋(ECRB)の外側上顆への付着に病理学的所見があるとする前提に基づいて、ECRBの外側上顆部からの剥離がある。外側肘疼痛への外科的介入を評価しているシステムティック・レビューはこれまで報告がない。

**目的:** 成人の外側肘疼痛治療に対する外科的介入の効果を判定する。

**検索戦略:** MEDLINE、CINAHL、EMBASEおよびSCISEARCHの包括的な電子検索とCochrane Clinical Trials RegistrarおよびMusculoskeletal Review Group's specialist trial databaseの検索を組み合わせた。可能な限り多くの試験を同定するために、同定したキーワードと著者を検索した。検索は2001年10月まで行った。

**選択基準:** 2名のレビューアが、事前に設定した選択基準に対して同定されたすべての研究を独自に評価した。あらゆる言語のランダム化および偽ランダム化試験で、外科的介入の効果が検討されており、また外側肘疼痛の成人患者に対する治療としてコントロールが含まれている場合に、本レビューに含めることとした。コントロール介入には、無治療または別の外科的介入を含むその他の介入から構成されているものとした。関心のあるアウトカムは、疼痛、機能、能力障害、生活の質、握力、有害作用などであった。

**データ収集と分析:** データの計画した収集および解析を記述する。

**主な結果:** 今回の検索から、外側肘疼痛に対する手術の効果を検討していた比較試験は1件も同定されなかった。

**レビューアの結論:** 現時点では、外側肘疼痛に対する手術について発表している比較試験はない。コントロール群がなければ、本治療法の価値についての結論を引き出すことは可能でない。

(監訳 吉田雅博)

翻訳公開日: 08年1月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。